

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4491100071		
法人名	社会福祉法人明峰会		
事業所名	グループホームオハナ		
所在地	大分県宇佐市大字四日市4452-1		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4491100071-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=4491100071-00&amp;PrefCd=44&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府番館 1F		
訪問調査日	令和3年3月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①当事業所は、ひびき山の高台に位置し、四季折々の景色に恵まれ、自然を感じることが出来ます。建物は木造平屋で、ホールには吹き抜けの窓があり、暖かな日差しを感じられ、環境に恵まれています。
- ②看護師配置にて、日々の健康管理が行え、異常の早期発見や医療機関への迅速な連携が図れています。
- ③学習療法の取り組みを行います。認知症の進行緩和はもちろん、職員とのコミュニケーションツールとしても活用出来ています。職員とゆっくりと過ごせる時間です。
- ④コロナ禍の為、面会制限を行っていますが、オンライン面会にて対応が出来ます。また広報誌「オハナ日記」の発行にて、利用者様の様子を伝えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

穏やかな空気の流れる事業所の一日の生活は「貴方らしく生きる～」の理念の基、利用者の笑顔を引き出し喜ぶことを常に考え、レクやゲーム、残在機能を活かし掃除や食事の手伝い・創作活動では、職員とともにマスクを作り家族に送る・庭(花壇)の草取りをする利用者等一日の中で楽しみを見つけ支援に繋がっています。また、「見守り」を大切に職員間では声掛けがよく行われ、訪問時にも連携が取れ、和気あいあいとする様子が見られました。コロナ禍で運営推進会議を自粛する中、アンケートを家族全員に送付し、その結果を参考に書面での会議を行う工夫をしています。職員の質向上を考える取り組みを行っており、朝礼時に職員交代で「3分間スピーチ」を行い、全員に自分の思いや大事なことを伝えており、仕事への意欲向上を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に理念を明記し意識づけをしている。また、毎日の朝礼で唱和している。支援の仕方に迷う時は理念に沿って方向性を検討している。	事業所理念に沿ったユニット目標や行動目標を職員で提案し、日々の運営や利用者を支援する時の指標としています。理念は名札の裏に明記し、朝礼で唱和 利用者・家族・職員で共有し、日々の支援が理念に沿った対応ができていないか見直しを行い実践に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は、地域の健康体操や認知症カフェなどに向いていたが、コロナ禍の為交流が図れていない。運営推進会議の議事録にオハナ日記を添えて区長、民生委員などに定期的に配っている。	地域交流の行事や認知症カフェ・認知症サポーター養成講座・近所の方との挨拶や会話等積極的に交流を進めていたが、現在コロナ禍により自粛されています。食材の購入は地域の商店を利用する等、出来ることを工夫しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為、認知症サポーター養成講座の開催やアルツハイマーデーのリーフレット配布活動への参加が制限され、出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議録やオハナ日記(広報誌)にて活動内容や日常の様子を伝えている。その際、意見や助言をアンケート方式で頂いている。	運営推進会議は、他のサロンを利用し1回開催されましたが、その後は書面で2ヶ月毎に行い、会議に必要な資料(アンケート結果等)を送付して意見を頂き、議事録を作成の上メンバー全員に配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課の担当者には、運営上分らないことがある場合は、アドバイスを頂いている。	市の担当者との情報交換や連携(相談・アドバイス)等協力関係の構築が出来ています。その中で年2回消防署立ち合いの防災訓練では指導や相談・説明もあり、市の協力の意識の高さが見られます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束適正化委員会を開催し事例等を取り上げている。身体拘束を行わないことを職員には周知している。	身体拘束廃止の研修会を開催し職員の周知に繋がっています。身体拘束の事例はありませんが、現在は虐待防止について取り組みを行い、スピーチロック等職員が気付かずに発する言葉や態度はないか会議で振り返っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて高齢者虐待防止について勉強会を実施。疑問があった際は、一人で抱え込むことがない様に、また個別に話を行うこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の活用では、安心サポートを利用して利用者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、事業所のケアに関する考え方や取り組みの話を交えながら、契約書を読み上げて説明。不安や疑問があれば、その都度それに対して丁寧に説明する様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は、面会や行事参加、運営推進会議への参加時に意見を伺っていたが、コロナ禍の為、アンケート方式や電話での対応となっている。	コロナ禍により、家族と直接面会して意見が聞けない状況の中で、たより・電話等の回数を増やし情報交換を行っています。また、家族全員にアンケート方式で情報提供を行っており、コロナ終息後もこの情報交換は続ける考えです。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談などの機会を設けている。また、その都度意見や提案の時間を設けることもある。	管理者は、職員が自分の意見や課題意識を話やすい雰囲気を作り、聞く機会を設けています。年2回の個別面談を行い、事業所の目標に沿った個人目標を作成・評価を行うことで向上心を持って働けるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与の水準や労働時間は、法人の定める基準によって実施している。また、年3回の自己評価を実施、面談を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修は、コロナ禍の為資料配布にて実施。事業所内勉強会も1回/月のペースで実施。メンター制度の取り組みを開始、新人職員へメンターが指導や思いの聞き取りなどを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後の生活に早く慣れてもらえるよう、声掛けやコミュニケーションを多く持つことを心掛けている。利用者の要望等を傾聴し必要な支援は何かを会議や申し送り等で話あって情報を共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後に利用者が安心して過ごせるよう、入所時には説明など家族と話し合いの時間を設けている。相談や報告等必要な場合は、都度連絡を取り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にも本人や家族と面会し、状態や要望を伺い、グループホームの生活で適切な支援ができるかどうかを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コロナ禍において参加行事を制限している為、調理や盛り付けと一緒にすることは出来ていない。しかし、食後の片づけや掃除、洗濯物畳みやシーツ交換をしたりと一緒に出来る事をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	看取り時期の利用者の支援では、コロナ禍で制限があったが、家族の絆を大切にしながら、ともに支える機会が持てる様に配慮した。家族との外出や外泊の機会が持てず、窓越しやオンライン面会にとどまっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においてこれまで参加していた地域の健康体操が中止。また行きつけの美容室に向く事が出来なくなった。家族との面会は、窓越しやオンライン面会で対応している。	馴染みの人や場との関係継続支援をたくさん実施し、利用者の笑顔が見られていましたが、現在はコロナ禍の影響で交流ができていません。家族や親せきの方の面会はオンラインや窓越しで行い、写真に利用者がメッセージを書いた「おたより」で支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のテーブル席は密にならない様に距離をとっているため隣同士でも話が聞こえにくいと言ってトラブルになる事もあるが、職員が仲裁に入り場面転換を図っている。利用者同士お互いに助け合う場面でもうぞやありがとうやすみませんなど会話がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後に転居先での様子を伺う機会を持っている。また逝去の際は葬儀参列や初盆のお参りに伺っていたが、今年は自粛している。しかし家族と手紙のやり取りをする機会が増えた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から本人の思いを受け取れるよう、様々な場面で確認し把握することに努め、職員間で共有出来るように努めている。	日々の生活支援の中で、利用者の希望や意向の把握に努めています。また、何でも話せる馴染みの関係を職員と築き、1対1で話せる環境作りにも重点を置いています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートから家族構成や職歴などを把握しそれを元に話題作りを行う。また学習療法の取り組みの際、昔の話を交えながら以前の様子を把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にとって一番落ち着ける環境作りが出来るように努めている。また学習療法や特性に合ったレク、家事を手伝ってもらうなど、利用者の活動の意欲維持に努め経過観察を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態を細かく把握し、ユニット内の職員同士で情報交換を行い支援している。利用者の過ごし方や対応などについて検討し、ケアの計画作成者に意見を提案している。	利用者・家族の要望を基に作成した介護計画は職員の意見を聞きながら3ヶ月毎のモニタリング、年1回の見直しに繋がっています。また、必要に応じて医師の意見も計画に反映されています。	日々の業務の中で、介護計画が共有されるようケース記録に個々のサービスの評価、達成状況が分かるような記録の工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務中や職員会議の時に、利用者の状態の変化や体調面などを話し合い、職員間で統一したケアに向けて取り組み、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りなど職員全体が同じ方向で一つになり、積極的に支援に取り組んでいる。コロナ禍の影響で制限がある中、新しいサービスの取り組みとして家族とのオンライン面会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材は地域の商店より購入し、お米は法人内の福祉農園「安心家族」より購入している。新型コロナウイルス感染拡大予防の為、地域へ出向くことが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の口調、表情の変化、バイタル測定健康管理を毎日行いチェックし記録している。異常時は本人への説明、家族への連絡、かかりつけ医と情報を密にし受診の予約など連携をとり、安全に適切な医療を受けられるよう支援している。	本人及び家族の希望するかかりつけ医に、入所後も継続して受診できるよう支援しています。コロナ禍における現在、受診は職員が対応しています。通院前後の状況を逐一家族に報告し職員と共に情報の共有に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と情報共有を密に行い早めの対応を行っている。主治医や地域連携室に相談連絡、情報を提供し指示を受けている。新型コロナウイルス感染症対策関連の勉強会、標準予防策の徹底を職員全員で取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーの作成、家族への連絡、主治医、地域連携室等の連絡を図り、利用者の入退院がスムーズに行えるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族と話し合いの時間を作り利用者が安全、安楽に過ごせるよう、家族、主治医、施設との今後の方針支援の変更等を確認している。職員間でも都度勉強会を行い情報を共有し、支援できるように体制作りを行っている。	契約時に、重度化した場合や終末期のあり方について家族と話し合いの場をもっています。家族・医療機関・施設が状況の変化に応じ都度協議して、最善の対応が出来るように支援しています。看取り後は職員一人ひとりが想いを書いて掲示し、今後の支援へと繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時の緊急時対応マニュアルを作成して、ファイルを事務所に設置してすぐ見れるようにしている。定期的に勉強会を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年度は毎月一回火災避難訓練を実施していたが、本年度はコロナの影響で実施回数減っているが、感染症予防策をとり、年2回は消防署立ち合いにて実施。また、災害時に備えて3日分の非常食を備蓄。	年2回、消防署指導で法人全体の防災訓練が実施されています。又本年度は4回避難訓練を実施しています。利用者の避難経路や場所等ケアハウスと連絡を取りながら対応に努めています。	地震による居室の洋服ダンス、整理ダンスの転倒、落下物、ホールの落下物等再度点検して、危険防止策を行い安全に避難誘導が出来る事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれ個々に言葉かけをしている。トイレ誘導などプライバシーを損ねないように対応している。	利用者の誇りを尊重し、プライバシー確保に向け、特に言葉かけに留意されています。利用者一人ひとりの思いを汲み取り職員全員で意見を出し合い確認して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	学習療法やカラオケなど利用者が希望すれば一緒に行い、希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など気分が乗らない時は、時間を遅らせたりと利用者のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアや散髪、爪切りなど利用者と一緒にいき清潔を保っている。入浴後の着替えの衣服は自己選択できるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ対策で現在利用者と一緒におかずのつぎ分け等の準備が出来なくなったが、後片付けのテーブル拭き、食器洗いなどを一緒に行っている。	食事は外注のサービスを利用しており、ごはん、汁物は施設で調理されています。サツマイモや寒天等を使ったおやつ作りも行われています、テーブル拭きや食器洗いのお手伝いも積極的にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事量、水分量をチェック、記録し職員同士の情報を共有する。日々の体調管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のお茶うがいや食後の歯磨きはそれぞれ個人で行い、使用後の歯ブラシ、コップなどは定期的に除菌消毒を行っている。各個人の状態に応じ口腔ケア時の必要なサポートを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを掴み、排泄ごとに記録し職員同士で共有している。それに合わせての声掛け誘導を行っているため、布パンツの利用者が多い。	利用者の排泄パターンを把握して職員間で共有しています。プライバシーや自尊心を大切に声掛け誘導に留意してトイレでの排泄を促し自立支援へと繋げています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し情報を共有している。毎日のおやつにヨーグルトを提供している。便が出にくい利用者は申し送り、水分補給にきな粉牛乳を提供、腹部マッサージをして自然な排便を促す努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定、週3~4回の入浴を実施。入浴拒否が見られる場合は、職員の変更、時間や順番などを変更。季節によっては、湯船にゆずなどを浮かべることもある。	体調や本人の意向を大切に、2日に1回入浴支援を行っています。利用者の好みの入浴方法でリラックスして満足して頂けるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの睡眠パターンを把握し記録、夜勤職員の情報を共有している。翌日の体調の様子を観察しながら昼寝などしてもらおう。昼夜逆転を起こさない様にその人の全体の睡眠時間の把握をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の内服薬一覧を作成。服薬介助の際は担当職員を決め、名前などの情報を声に出し確認するなど工夫することで服薬に関するヒヤリハット件数が減ってきた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホールでは、カラオケを楽しんでもらったり、手指の運動や脳活ゲーム、足浴でマッサージを実施。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出行事や外泊などが難しくなった為、自然に恵まれた法人内の敷地を散歩、季節を感じてもらっている。	施設周辺は自然に恵まれ、散歩や外気浴をして気分転換を図ることが出来、季節の移ろいを感じて頂くように支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍の為、地域や商店に出向く機会がもてていない。必要な物品に関しては、施設や家族対応で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自らが電話や手紙でのやり取りを行うことは出来ていない。しかし、家族からかかってくる電話やオンライン面会には対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日定時に掃除を行い清潔な日常の保持に重点を置いている。季節を感じてもらえるように日めくりカレンダーを作り毎日めくってもらったり、壁の風景画や花の装飾を変えたり、利用者の好みの音楽を流したりしている。	共用空間は清潔が待たれ、壁には風景画や季節の手作りの作品が飾られ、利用者の好みの音楽が流れ、居心地よく過ごせるよう工夫がみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニット間の行き来は自由にしてもらっており、他ユニットでひとり静かに過ごされることもある。また中庭前の通路には椅子を準備し、外の景色を眺められる様に椅子を準備。畳の間もある。壁には壁面や利用者の作品などを掲示し眺められる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のタンスの上には、、家族の写真や表彰状などを飾っていたり、使い慣れた枕や毛布を準備している。本人の拘りの物があれば、可能な限り対応することを心がけている。	使い慣れた家具や寝具が持ち込まれ、家族写真・ぬいぐるみ・花などが飾られています。安心して落ち着いて暮らせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の明かりは照明にひもを付けて自分で操作してもらうなど些細な動作が出来る出来る様に工夫している。		